

全世界グループ共通の倫理観を醸成する 「日東電工グループビジネス行動ガイドライン」を制定しました

世界各国に広がる日東電工グループの全従業員が、「One-NITTO」としてのグループの行動の価値観を共有し、共通の倫理感を持つことを目的として「日東電工グループビジネス行動ガイドライン」を新たに制定しました。ここではその制定に至る背景と経緯、今後展開する世界レベルでのコンプライアンスの取り組みを紹介します。

事業活動の急激なグローバル化を背景に

世間では、粉飾決算や情報漏えい、さまざまな問題の隠蔽など、ステークホルダーの信頼を裏切る不祥事が頻発しています。たった一度の不祥事でも、企業はそれまで築き上げた実績や信頼をすべて失うことになり得ます。また、当然のことながらそのような企業の商品・サービスは市場から淘汰されてしまいます。

日東電工グループは、このような問題の根底にあるのがコンプライアンス意識の欠如であると考え、2005年度からCSR推進の重点項目として、コンプライアンスの徹底を世界レベルで取り組むことにしました。

これまで、2003年4月に「日東電工グループ法令倫理遵守ガイドライン」を作成し、国内の日東電工グループ従業員に配布、徹底を行ってまいりました。しかし、現在、日東電工グループは世界20数カ国で事業活動を展開し、約27,000名の従業員が働いています。国や地域が違えば、法律はもちろん、慣習なども異なることから、グループ全体で共通のコンプライアンス意識を持つことは簡単ではありません。このような状況から、日本語のガイドラインだけではコンプライアンスの意識は徹底できないと考え、世界で共通して使用できるガイドラインの作成に着手しました。

ガイドラインに示す行動の価値観

(英語マスターの翻訳版)

誠実さ

私たちは、自身に対して、またお互いに、最高レベルの誠実さを求めます。

私たちは、会社の資産を守ります。

私たちは、すべての会社方針と法に従います。

私たちは、企業市民として責任を持って行動します。

卓越性

私たちは、製品や工程の開発、そして自身の進化に挑戦し続けます。

私たちは、行動の原点であるオープン・フェア・ベストを実行します。

私たちは、お客様の事業を理解し、それを成功させることに尽力します。

私たちは、従業員の個性を尊重し、仕事を通じた自己実現を可能にします。

私たちは、多様性、平等性、相互尊重、相互信頼の確保に努めます。

責任

私たちは、コミットメントを重んじて、全ての行動と結果に責任を負います。

私たちは、私たちの文化の重要な要素であるたゆまぬ革新を約束します。

私たちは、環境に配慮し、地域および国際社会への貢献に努めます。



ロビン・アンドリュー

アメリカエリア
(日東電工アメリカ)

世界から集まった同僚とともに、世界共通のガイドラインの作成にたずさわる機会を得たことは、私自身にとって非常に価値のある経験でした。次のアクションとして、この新しいガイドラインをすべてのアメリカエリアのメンバーに伝え、日常のビジネスの中に浸透させることに取り組みます。



エリック・パス

ヨーロッパエリア
(日東電工ヨーロッパ)

グローバル化が伝統的な考え方や個々の倫理観・行動に大きなインパクトを与えている昨今において、本ガイドラインの作成に貢献できたことは大変喜ばしく感じています。このガイドラインが、全世界のグループ従業員一人ひとりに、何が望まれているのかを示し、また助言する“灯台”となることを希望しています。



陳 少雄

東アジアエリア
(日東電工(上海松江))

今回、ガイドラインの作成という共通の目標に向かって、日本と4つのエリアが同じ立場で互いに議論し合い、ともに頑張ることができました。これこそが、真のグローバル化のモデルだと思います。今後も日東電工グループに誇りを持ち、その姿勢を全世界のメンバーと共有化したいと思います。

ロスラン・ディラン

南アジアエリア
(日東電工エレクトロニクスマレーシア)

プロジェクトメンバーに選ばれたことは大きな驚きであり名誉なことでした。各エリアの代表とともに3か月に及ぶメールベースでの議論、そして一同に会しての一週間の集中討議と編集作業に参加し“One-NITTO”の風を直接感じることができました。「グローバル・エクセレント・カンパニー」実現に向けて貢献できたことに、大きな満足感と誇りを感じています。



多国籍メンバーによるプロジェクトチームを編成

2005年5月から約半年間にわたり、CSR推進部が世界に共通して使用できるガイドラインについて調査・準備を開始。2005年12月にCSR推進委員会のもとに「日東電工グループビジネス行動ガイドライン」制定プロジェクトチームを発足しました。このチームは、CSRやコンプライアンスに詳しい多国籍メンバー5名(アメリカ、ヨーロッパ(ベルギー)、東アジア(中国)、南アジア(マレーシア)、日本)で構成されました。

プロジェクトメンバーは、まず、現行の「日東電工グループ法令倫理遵守ガイドライン」の内容の見直しから実施。世界に通用するガイドラインに仕上げるべく、各エリアの意見を取りまとめ、国・地域の法令・慣習を勘案しながら、ガイドラインに盛り込むべき内容と項目について議論を重ねました。そして2006年3月末に、日東電工グループ統一のガイドラインである「日東電工グループビジネス行動ガイドライン」の詳細内容を決定しました。

このガイドラインの冒頭に掲げているのが、従業員に求められる「誠実さ」、「卓越性」、「責任」です。もしも、事業活動の中で判断がつかない場合や倫理上疑問に感じることがあれば、「それは「誠実さ」、「卓越性」、「責任」という共通の行動の価値観と矛盾していないか?」「それはガイドラインや日東電工グループの方針・手順、または法令に反していないか?」「お客様、その他ステークホルダー、一般の人々、またあなたの家族は、それを正しいと考えるのか?」「オープン・フェア・ベストを実行しているか?」を自問自答し襟を正すよう促しています。

世界中で説明会や研修を実施予定

このガイドラインは、「職場環境」「資産保護」「事業活動」「法令遵守」「あなた自身の時間」の5項目から構成されています。さまざまなビジネスシーンを想定し、従業員が判断に困るような34の具体的な項目に対し、判断の基本となる価値観と参考事例を示しました。また、事例説明の最後に署名欄を設け、個人がガイドラインの内容と自身の責任を理解したことを確認しています。

今後、2006年度前半に12言語の翻訳版ガイドラインを完成させ、それをもとに全世界の日東電工グループ従業員に対して、エリア説明会あるいは研修などを精力的に実施します。一人ひとりがこのガイドラインを理解し、日東電工グループの行動の価値観を共有するためのツールとして、また事業活動支援において法令および倫理に則った判断の基準として、有効に機能させていく予定です。

